

第 19 回日本集団災害医学会総会・学術集会 一般演題
会 期: 平成 26 年 2 月 25 日 (火) ~26 日 (水) ; 会 場: 東京国際フォーラム

【机上訓練・シミュレーションを取り入れた、START 法トリアージの院内講習会】

A "START style" triage class for hospital staffs performed using "exercises on the desk" and "simulation"

市立八幡浜総合病院 ○川口久美、宮谷理恵、越智元郎

—抄録—

【目的】

当院では医師数減少のためトリアージ担当に医師を配置できない可能性があり、また、津波避難時に院内各所でトリアージを行う必要がある。

今回、全職種対象として、講習会を実施したので報告する。

【方法】

平成 25 年 7 月 29 日。机上訓練ではタッグ記載練習・カテゴリー判定訓練。シミュレーション訓練は模擬患者とトリアージ班の 2 班に分かれて実施。

終了後に無記名でアンケート調査を実施した。

【結果】

- 1) タッグ記載練習：記載漏れが目立った。
- 2) カテゴリー判定：医師・看護師は 1 人 2 症例、それ以外は 1 人 1 症例を判定。ほぼ正答した。
- 3) シミュレーション：トリアージ役の 10 組が 15 分で傷病者役 28 人を振り分けた
- 4) アンケートには受講者 44 人中 88.6%が回答。
スタート法を知っていたのは 51.3%、少し知っていたが 15.4%、知らなかったが 33.3%。時間は、長い 48.7%、ちょうど良いが 51.3%、内容の量は多いが 5.1%、ちょうど良いが 94.9%を占めた。

【考察および結論】

トリアージを体験し、緊急度・優先度の判断や災害時のトリアージの意義を実感できる機会となった。

今回の結果を生かし、講習会を継続していきたい。